

石戸館跡(北本市)

築城年代: 鎌倉時代、築城者: 石戸左衛門尉

この右奥が石戸館跡と云う



右手を見たところ/前方に鳥居が見える



石戸神社鳥居/ここが石戸館跡とされる/鎌倉時代に石戸左衛門尉によって築かれたと云う/現状は石戸神社となっており、源頼朝の異母弟、源範頼の居館跡という伝承もあるらしい



石戸神社鳥居の脇に立つ社号標石柱



「鎌倉暁将石戸左衛門尉館跡」と記されている



正面が社殿/右手前に説明板が立っている



石戸神社由緒書/「当社裏手に館の土塁と堀と思われる遺構が今も残る」と記されている

石戸神社 御由緒

北本市石戸宿三・四三

□ 御縁起（歴史）

当社は石戸宿の小名の一つである堀之内に鎮座している。堀之内の地名の由来は、『風土記稿』石戸宿村の阿弥陀堂の条に「小名堀之内にあり、あひ伝へて此地蒲冠者範頼（源範頼）の住居の地とも、又石戸左衛門尉の居城なりともいへり」と載り、居館にめぐらした堀にちなむという。当社裏手に館の土塁と堀と思われる遺構が今も残る。

当社は、古くは白山社と号した。創建の経緯は不明であるが、地内の東光寺は、かつて阿弥陀堂と呼ばれており、源頼朝の弟範頼が当地へ配流となった折、息女の龜御膳が病に罹り、正治元年（一一九九）七月に亡くなったため、その追福により堂を建てたことに始まると伝わる。白山修験が信仰した白山三所権現は、十一面観音・阿弥陀・聖観音を本地とし崇敬することから、十一面観音の垂迹である菊理姫命を祭神とする当社も、阿弥陀堂の創建と前後して祀られたものではなからうか。ちなみに、当社の本殿には、年紀はないが金泥に塗られた全高二三・五センチメートルの十一面観音座像が安置されている。

当社の江戸期の事歴については明らかではなく、明治初年の社格制定に際しては無格社とされた。

昭和十八年に、石戸宿村が中丸村と合併し北本宿村になると、「石戸」の地名が消えることを惜しみ、社号を「石戸神社」に改めたという。

平成五年十月、多くの氏子の協力によって社殿を新築した。

□ 御祭神と御神徳

・菊理媛命・・・縁結び、厄除け

□ 御祭日

・祈年祭（一月二十一日に近い日曜）

・春祭り（四月十五日に近い日曜）

・例祭（十月十五日に近い日曜）

・大祓祭（十二月十七日に近い日曜）

社殿の裏手(北側)に回ってみる



前方にマウンドがある



アップで見たところ/これが裏手にある土塁の名残/塁上に祠が二つ建っている



墨上の祠



右手を見たところ



左手を見たところ



その先もこんな塩梅で、土塁が西方向に続いている



右下の斜面で西方向を見たところ/右手には堀跡が並行する



壘上を見上げたところ



これは北側から土塁のある茂みを見たところ



左手に近づいてみると、先程の社殿が見える



神社の背後の茂みに沿った道路を見ると、土塁・堀跡に沿って折れを伴って館跡(左手)を取り巻いている様子が窺える



その先はこんな塩梅で、少し先で左手に回り込んでいる



前方の西端まで進んで、振り返って見たところ/右手が館跡



茂みの中を覗いてみると、堀跡らしき窪みがある



更に、堀跡の向こうに土塁が見える



これは西端を南方向に回り込んで、茂みの一帯を見たところ/この辺り全体が石戸城跡と云うことか



前方の茂みを南北に横断する細道に踏み込むと、そこにも土塁らしきマウンドが見受けられる



左手の土塁らしきマウンドを見たところ



これは南側から遠目に石戸城跡のエリアを見たところ



そこに立っていた説明板には「堀之内館跡」と記されていて、これは石戸城跡の別名らしい



その道路を北方向に進む/前方の木々の辺りが先程見て回ったエリア



更に近づくと、この左手辺りが「堀之内館跡」と記された所ようだ



ここはその南西側にある東光寺/本堂の建つ、このマウンドも石戸館跡の土塁の名残と云うが



本堂の右手に説明坂と標柱が立っている



東光寺の文化財



願起阿彌陀如来坐像

東光寺は川越市東明寺（時宗）の末寺で、西龜山無量院東向寺とも号し、伝説によると蒲冠者源範頼の開基といわれている。境内には、国指定天然記念物「石戸蒲サクラ」をはじめ、県指定考古資料「板石塔婆」や、市指定彫刻「銅造阿彌陀如来坐像」など多数の文化財が所在している。また、寺域及び周辺地域は鎌倉時代の館跡であることが知られている。

国指定
天然記念物

石

戸

蒲

サ

ク

ラ

大正十一年十月十二日 指定



天然記念物に指定された当時の蒲サクラ



渡辺馬琴著「玄同放言」に渡辺華山が描いた蒲サクラ

「石戸蒲サクラ」は、福島県三春の滝桜・山梨県山高の神代桜・静岡県狩宿の下馬桜・岐阜県根尾谷の淡墨桜と共に、日本五大桜に数えられる名木である。
「蒲サクラ」の名称は、鎌倉幕府を開いた源頼朝の弟蒲冠者源範頼の伝説による。一説には、範頼が石戸に来た時についてきた杖が根づいたのがこの桜で、蒲冠者の名にちなんで「蒲サクラ」と名付けられたという。

天然記念物に指定された当時は四本の大きな幹に分かれ、根元の周囲は十一メートルもあったと記録されている。現在開花する幹は老木の株分けて、いわば二代目「蒲サクラ」である。品種はエドヒガンサクラとヤマザクラの交配種とされ、四月上旬に開花する。

県指定
考古資料

板

石

塔

婆

群

昭

和

四

十

年

三月

十六日

指定

市指定
歴史資料

東

光

寺

板

石

塔

婆

群

昭

和

五

十

三年

三月

十五日

指定



貞永の板石塔婆



東光寺板石塔婆群
(現在は収蔵庫にて保管)

板石塔婆は、板碑・青石塔婆とも呼ばれ、鎌倉時代から室町時代末期にかけて多数つくられた供養塔である。東光寺には二十二基の板石塔婆があり、かつては蒲サクラの周囲に立てられていた。県指定の「板石塔婆」は、貞永二年（一二三三）の銘をもち、全国第四位の古さである。

表面上部に梵字で阿彌陀三尊（阿彌陀・観音・勢至）を配し、その下部に「光明遍照 十方世界 念佛衆生 撰取不捨」の偈（仏の功徳をたたえる詩）が刻まれ、周囲には円と半円の装飾が刻まれている。国の認定重要美術品である。

この他にも寛元四年（一二四六）銘や建長三年（一二五一）銘等の比較的古いものが多く、当市の歴史を知る資料として貴重である。これらは一括して「東光寺板石塔婆群」として指定し、現在は市教育委員会が管理・公開している。

平成五年三月

埼玉県教育委員会
北本市教育委員会

これは境内に保存されている国の天然記念物の蒲桜/蒲冠者と呼ばれた源範頼に由来するようだ



これは収蔵庫/左手前に標柱が立っている



「市指定 歴史資料 東光寺板石塔婆群」とある





とうこう じ いたいし とう ば ぐん
 東光寺板石塔婆群
 (現在は収蔵庫にて保管)



いたいし とう ば
 貞永の板石塔婆

その他にもさまざまな石造物があった







これは東光寺から見た石戸城跡のエリア/前方の木々の中に土塁や堀跡があった/北方向を見たところ



参考ホームページ

<https://blog.goo.ne.jp/ihcirot/e/763c0ea504db8753846f8b5144fb06d7>

<http://yogokun.my.coocan.jp/saitama/kitamotosi.htm>

<https://ckk12850.exblog.jp/7054023/>

<http://iyokakuzukan.la.coocan.jp/011saitama/107ishido/ishido.html>

